

淨土宗三祖

## 然阿良忠上人年譜

三 谷 光 順

は し が き

淨土宗第三祖然阿良忠上人研究號が出版されるに當り、専ら慶安版然阿上人傳（慶安四辛卯孟春吉日京都村上平樂寺開版）に依り上人記傳考察を試み、（其他の上人傳貞享版、天保版等は、後人、慶安版に基き、修飾改竄せるものなるが故に拋棄す）傍ら惠谷隆戒教授の「然阿良忠上人傳の研究」を参照しつつ、略年譜を編するここにした。良忠上人年譜考並にその學風等に就いては、先に築田眞教氏が「淨土學」第一輯に、今岡達音氏が同第四輯に於て微細に考證研究發表せられたところである。今は金澤文庫所藏淨土古鈔本を中心とし、特に三祖常隨の弟子にして多數淨土典籍を書寫し、下總地方の三祖の講席に侍して其講義を筆録せる良聖の書寫本に依つて、三祖記傳に新事實を附加し、建長康元正嘉文應年間下總上總常陸方面に於ける上人の動靜を明記して置いた。比較考證すべきところも多々あるのであるが、紙數の都合上今は略しその補正は後日を期し學者の是正を幾ふところである。



(代六十八) 河堀後		
1892	1876	1874
(四月) 貞永	建保四	建保二
34	18	16
<p>三月下旬故郷石州多陀寺に隱栖餘行を捨て、専心不斷念佛を修し數年を送る。(慶安版)</p> <p>十九歳ヨリ三十三歳迄消息不明ナルモ此間恐クハ諸宗碩學訪問各教義研究ニ没頭セラレシナラン。</p>	<p>大聖竹林寺記を読み 忽ち淨土門に歸し 日課念佛一萬遍を唱ふ。(慶安版)</p> <p>以後思ヒテ西方ニヨセ、行ヲ顯密ニ勵ミ、往生ヲ期スル心深ク、日暹、圓信(當時鑿山巨匠カ)ニツキ天台俱舍ヲ、密藏尊觀ニツキ台密ヲ、其他法相三論、華嚴律等ヲ研究シソノ奥旨ヲ受ク。貞享版ニ禪ヲ榮朝道元ニウケ、法相三論等ヲ泉涌寺俊仍ニ稟クトイフ。恐クハ貞享版ノ作者「傳通記釋鈔」並ニ「慶安版」ノ說ヲ取意改竄セシナラン。</p>	<p>十一月登山受戒す。(恐クハ鑿山戒檀カ)</p> <p>(慶安版)</p> <p>コノ頃ヨリ思想上ノ轉換ヲ來シ、法華經ヲ誦シ即身成佛ヲ期ス。</p>
<p>●正月高辨寂(辨傳二)</p>	<p>●閏六月三井公胤寂(吾)</p> <p>●二月隆寛、具三心義二卷ヲ撰ス(金澤文庫藏同書奥)</p>	<p>●三月聖覺眞如堂ニ於テ宗祖ノ三回忌ヲ修シ七日間融通念佛ヲ行フ(然書十七、大原鈔)</p> <p>●五月、惠空、唐朝善導和尚類聚傳ヲ寫ス、(西本願寺藏同奥)</p>

1897	1896
三	嘉禎二
39	38
<p>四月十日善導寺にて傳法受法(授手印、領解鈔奥)                  正月十八日より四月廿日迄聖光上人の「淨土宗                  要集」の講義を筆受す。(淨土宗要集奥)                  この頃より然阿と號せられしか。                  七月六日善導寺塔に於て上人より「徹選擇」の讓                  與を稟け、八月一日璽書を賜ふ。三日「領解末                  代念佛授手印鈔」を草して上人の印可を受く。                  (慶安版、聖光傳、決答鈔上、領解鈔奥)                  八月下旬歸國、以後十年間藝州石州を往還                  淨教を弘通す。(慶安版、糝鈔一)</p>	<p>九月七日生佛法師(不詳)の勧めにより、二祖聖                  光上人に淨土の要を聞かん爲筑後善導寺に至る                  八日、上妻天福寺にて聖光上人に謁す。二祖七                  十二歳。(慶安版、決疑鈔五、領解授手印徹心鈔下奥)                  以後聖光上人より明る三年七月迄、觀經疏、法                  事讚、觀念法門、禮讚、般舟讚、論註、安樂集                  往生要集、選擇集、十二門戒儀等一々讀傳へり                  (決疑鈔五)</p>
<p>●八月二祖識知淨土論ヲ顯                  ハス(同識語)                  ●九月源智、二祖ニ書ヲ送                  ル(然畫四六)</p>	

(代九十八) 草深後	(代八十八) 峨嵯後		
1908	1903	1900	1899
寶治二	寛元 (二月)	仁治	延應
50	45	42	41
<p>春上洛 淨意尼の請により選擇集を講じ、竹谷乘願等宗祖の遺弟を歴訪法談し(授手印決答疑問鈔)上程なく信州善光寺に向ふ。この地に於て觀經疏を講せらる。(慶安版)</p> <p>寺傳によるにこの年勢州觀音寺(三重郡四足八頭村)にて在家を勸誡すと云不詳。</p> <p>〔慶安版〕傳通記糺鈔一ニ云フ法相三論華嚴律禪等ノ宗旨傳受研鑽ノコト、又生駒良遍ニ師事ノコト、コノ年ノ上洛ノ時ニハアラザルカ。</p>	<p>源朝より「起信論釋論疏記鈔並私鈔物」等の傳承をうくと。(糺鈔一)</p> <p>〔慶安版〕に「源朝阿闍梨に謁し、密教相を傳ふ」の記事あり。三祖源朝(高野明王院學頭)に謁し眞言秘法を傳受せしは、藝石往還念佛宣揚の折にして恐くはこの年ならん。(高野春秋編年輯録ハ參照)</p>	<p>「貞享版」ニ延應元年春上洛、仁治元年二月鎌倉悟真寺ニ入り、三月佐介谷蓮華寺(北條經時建立トイフ誤)ニ移住シ、寶治二年上洛、同年鎌倉下向、建治二年再上洛ストハ誤ナリ。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 九月 蘭田智明寂(然講二六)</li> <li>● 親鸞高僧和讃ヲ著ス</li> <li>● 三月 乘空、惣別二額抄ヲ寫ス(金澤文庫藏同書奥)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋、信寂、遠江國ニ行キ念佛ヲ弘ム(然講四二三)</li> <li>● 薩生全報、念佛助行要文抄ヲ撰ス(同奥)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 二月 一 遍生(遍註)</li> <li>● 三月 選擇集ヲ刻ス、延應版コレナリ(跋、刻史)</li> <li>● 三月 凝然生ル(高一六)</li> <li>● 五月 山徒祇園神人ヲシテ念佛ヲ停止セシム(遺錄五)</li> </ul>	

1914	1910	1909
建長六	二	建長元 (二月)
56	52	51
<p>十月上旬、江ノ禪門(不明)の請に依つて『三心私記一巻』を執筆す(同序)述作所恐くは銚子附近にあらざるや(千葉縣豊浦淨國寺寺傳、淨土學四輯今岡氏論文參照)</p> <p>十二月千葉氏の特請により匝差郡福岡に移住し(授手印決答受決鈔上)同廿日より觀經定善義(像觀已下)の講義を始む。(金澤文庫藏良聖書寫觀經定善義聞書與參照)</p>	<p>仲秋上旬下總匝差郡鐮木(千葉縣香取郡古城村)住、鐮木九郎胤定入道在阿(千葉氏一族)の請によつて『選擇傳弘決疑鈔五卷』を撰す。(同書序、諸記類聚)</p> <p>● 淨土群疑論ヲ刻ス(刻史)</p>	<p>この頃より信州の教化を終へ、利根川に沿ふて關東に入り上野、下野、下總、常陸、武藏地方に教線を張る。</p> <p>二月十一日『淨土大意鈔』一巻を撰し在家の信者に淨土安心を示す。(同書序)</p> <p>● 淨土群疑論ヲ刻ス(刻史)</p>
<p>● 七月良空、淨遍僧都別異弘願集ヲ寫ス (澤文庫藏同書與)</p>	<p>建長二年夏ヨリ六年春迄三祖ノ動靜不明。</p>	

1917	1916	1915
<p>正嘉 (三月)</p>	<p>康元 (十月)</p>	<p>七</p>
<p>59</p>	<p>58</p>	<p>57</p>
<p>正月上總國に於て往生禮讚を講ず。(金澤文庫藏良聖書寫往生禮讚聞書奥) 上總の教化を終へ、二月十八日下總國福岡に歸り、鐺木九郎入道在阿の懇請によつて『授手印決答疑問鈔』二卷を撰す。(同書序、銘心鈔上、受決鈔上) 千葉氏の一族荒見彌四郎の請に依つて大須賀部飯岡(千葉縣印幡郡久住村)光明寺に住し、三月</p>	<p>三月下總國米倉郡(福岡?)にて往生論註を講ず。(金澤文庫藏良聖書寫論註聞書奥) 夏頃福岡を立ち、香取郡下飯田(現同郡森山村下飯田)、常陸小野郷等各地を遊化し、八月小野郷(茨木縣稻敷郡太田村)に於て『群疑論見聞』七卷を撰す。(金澤文庫藏良聖書寫群疑論見聞七奥) 八月十六日群疑論講了後南下して上總國を遊化す。</p>	<p>一月三日より福岡に於て定善義續講、二月六日講了。開講三十六日間、聽聞衆五十人。(金澤文庫藏定善義聞書奥) 四月八日より立義分宗旨門以下續講、五月十七日講了。(同立義分聞書奥) 夏より翌八年春迄法事讚を講義せられしや。 (金澤文庫藏良聖書寫法事讚聞書卷一奥參照)</p>
	<p>●秋、敬西房信瑞、廣疑瑞決集五卷ヲ著ス。 ●十一月時頼落髮法名道崇(吾四六)</p>	<p>●二月稚成親王但馬ニテ薨(翼養五十四) ●九月在阿、遠江禪勝房ニ書狀ヲ以テ不審ヲ問フ</p>

1918

正嘉二

60

二十一日觀經疏傳通記

(廿五帖鈔)を起草す。  
(傳通記散記三奥、受決鈔)

七月石川禪門(澁谷七郎入道道辨)書面を以て教化を請ふ。三祖傳通記講義中屢々禪門を鎌倉に訪ひ法談す。(受決鈔)

十二月傳通記講述の餘暇、印東庄石橋郡(千葉縣印幡郡豐住村石橋?)にて俱舍論を講ず。(金澤文庫良聖書寫俱舍論抄宗要集一奥)

三月廿九日傳通記十五卷下總福岡西福寺にて撰了。(同書序、傳通散記奥、受決鈔)

九月廿一日「淨土宗行者用意問答」一卷を撰す。

光明寺誌に、權名小次郎、下總匝瑳郡尾垂木戸村光泉寺ヲ開キ、三祖ニ開眼ヲ請フ記事アリ。用意問答ハ恐クハ、此處ニ於テノ撰述カ。

檀越、椎那八郎、荒見瀨四郎不和になり、爲に三祖各地を轉々とし鎌倉に入りしはこの年以後ならん。始め大佛谷淨光聖の庵室に假寓し、後佐介谷悟眞寺(北條朝直建立)に住す。(慶安版受決鈔)

尙金澤文庫ニハ良聖筆錄ノ「釋摩訶衍論聞書」ノ殘缺本アリ。三祖コノ頃講義セラレシモノカ。

●五月上總周東在阿寂

●十月遠江蓮華寺禪勝房寂  
(然畫四五、念傳)

(代十九) 龜山天皇

1925	1923	1922	1920
文永二	三	弘長二	文應 (四月)
67	65	64	62
<p>この年の前後、足立郡箕田に起居せられしか。 文永元年散善義略鈔(足立鈔)を作られしと。 (諸記類聚、光明寺誌)</p>	<p>三月二十日第二回「往生論註記」起草。門弟道光の所傳か。(論註略抄下奥、論註料簡鈔参照)</p>	<p>七月高野敬忍房の請によりて、觀經疏略鈔八卷の内五卷を撰す。 (諸記類聚、淨土學四輯今岡氏論文参照) 散善義略鈔三卷ハ文永年間武藏足立郡箕田ニ於テ作製ス。</p>	<p>三月二十六日「徹選擇鈔」二卷を作る。(同書識語) 六月十七日「淨土宗要集聽書」二卷を撰す。(同書首題下)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●十一月北條時頼卒(吾五一、然書二六)</li> <li>●向阿生ル</li> <li>●長西專雅二種義ヲ著ス、(金澤文庫藏同書奥)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●敬西房、法然上人傳ヲ作リ鎌倉ニ下向時頼ニ上ル(然書二六)</li> <li>●西大寺睿尊鎌倉ニ入ル、(關記)</li> <li>●十一月親鸞寂(鸞繪二、高統六)</li> <li>●凝然、九品寺ニテ長西ヨリ觀經疏ノ講義ヲキク、(菴羅記)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●五月、日蓮、顯目抄ヲ作リ九月、立正安國論成ル(蓮語)</li> </ul>

1934	1932	1931	1929
十一	九	八	六
76	74	73	71
<p>正月十六日より鎌倉悟眞寺に於て傳通記治定を始む。</p> <p>十一月十日三心業成につき、三祖自ら自筆狀を以て答決す。(淨土述聞口傳切紙、淨土述聞口決鈔上)</p> <p>〔勅傳四六〕ニヨレバ、文永ノ頃三祖、源智ノ資蓮寂ト、東山赤築地ニテ談義ノコトアレド、文永年間三祖上洛アリシトハ思ハレズ。</p>	<p>慈心房良空、禮阿念空、三祖の門を叩き受學三年後歸洛す。</p> <p>禮阿念空、三祖の門を叩き受學三年後歸洛す。</p>	<p>四祖寂慧良曉(二十歳)三祖の室に入る。後三祖、附屬の任となし、「淨土章疏」明王院相傳の「釋摩訶衍論十卷」「慈行鈔」を相傳す。</p> <p>(述聞制文)</p>	<p>先に三祖その門弟源忠、道忠を南都に遊學せしむ。</p> <p>道忠歸省後、文永六年十二月群疑論探要記十四卷ヲ草記ス。(諸記類聚)</p> <p>十月「選擇集略鈔」を撰すと。(淨土學四輯今岡氏論文參照)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 十二月了慧、黒谷上人語燈錄十一卷ヲ誦ス(黒序)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 了慧京都檀王法林寺ヲ創ス(新任三)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 五月西谷淨音寂(系譜三、蓮派、法記)</li> <li>● 九月日蓮龍口ノ雖ニ遣フ(録六)</li> <li>● 十月日蓮佐渡ニ渡サル、(譜録三〇)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 永源、京都ニ於テ長西撰述觀經疏光明抄ヲ寫ス、(金澤文庫藏同書奥)</li> </ul>

(代一十九) 皇天多宇後

1940	1939	1937	1936	1935
三	弘安二	三	二	建治 (四月)
82	81	79	78	77
<p>二月八日了慧に授手印を授與す。(滋賀新知恩院藏道光傳承本授手印血脈相傳手次)</p>	<p>十一月二十九日望西樓了慧に圓頓戒を授く(安藝嚴島光明院藏了慧筆圓戒譜、淨華院圓戒譜)</p>	<p>二月二十二日二祖より傳承せし授手印を禮阿念空に授與す(宇和島大超寺藏向阿上人筆念空傳承本授手印相傳狀)</p> <p>九月毘沙門堂阿彌の間に答へて『選擇疑問答』一卷を作る。(同書奥)</p>	<p>九月、慈心、禮阿の特請により上洛。 (淨土通聞鈔下、慶安版)</p> <p>「鎮西宗要本末口傳鈔」ニ、三祖建治三年上洛トアルモ恐誤。</p>	<p>十一月十六日傳通記再治完了(傳通記散記三奥)</p>
<p>●十月辨圓(聖一國師)寂、 (明譜)</p>	<p>●三月圓覺、清涼寺ニ大念佛ヲ始ム(武家三)</p> <p>●十月敬西房信瑞寂(法記)</p>	<p>●了慧、慈明ニ圓戒ヲ授ク (淨譜)</p>	<p>●金澤文庫ニ建治二年奥アル、入阿撰ノ書寫本觀經疏顯意抄四卷、注生禮讚、般舟讚、法事讚、觀念法門ノ要略記六卷アリ。</p> <p>●良曉、上野館林善導寺ヲ創ム(檀志)</p>	

1947	1946	1943
十	九	五
S9	S8	S4
<p>正月三日良曉の就行立信の間に答へて自筆狀を賜ふ。(浄土述開鈔)</p> <p>〔浄土述開鈔〕「傳通記糅鈔四三」ニヨレバ五月「傳通記」ヲ再三治定セラレシコト見ユ。</p> <p>六月十六日痢病に罹り七月六日寂。(慶安版)</p> <p>十月十六日「浄土宗要肝心集良忠撰」鎌倉名越善導にて書寫さる。(金澤文庫藏同書奥)</p> <p>滅後六年、伏見帝永仁元年七月記主禪師ト諡號ヲ賜ハルトイフ(貞享版)</p>	<p>九月十八日鎌倉悟真寺に歸山。(建治二年より滯洛十一年)十月附法狀を良曉に賜ふ。(十六疑問答見聞一)</p> <p>傳法沿革依憑笈考ニ九月六日良曉ニ璽書ヲ給フトイフハ誤。</p>	<p>十二月中旬「安樂集私記」二卷撰述(同書奥書)</p> <p>諸記類聚ニ建治三年作トハ誤。</p> <p>尙三祖の著述として「浄土宗要集五卷」「浄土宗要肝心集三卷」(金澤文庫には弘安十年十月の書寫本あり)「往生要集義記八卷」あり。恐くは三祖晩年上洛時弘安年中の撰ならん。其他述作年代不明のもの「觀念法門私記」「法事讚私記」「般舟讚私記」等あり。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 七月八日 道教(念空) 寂 (法記)</li> <li>● 八月了慧別傳一卷ヲ著ス</li> <li>● 證賢浄土門ニ入ル</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 十月日蓮寂(蓮傳)</li> </ul>

引用書目略解

慶安版 然阿上人傳一卷 道光著

聖光傳 聖光上人傳 道光著

然 畫 法然上人行狀畫圖四八卷 舜昌編

源 流 淨土源流章一卷 凝然撰

辨 傳 明惠上人傳二卷 喜海著

吾 吾妻鏡五二卷

跋 選擇本願念佛集跋 義山撰

遺 錄 高祖遺文錄三十卷 泰堂編

蓮 譜 蓮光大師年譜一卷

鸞 繪 本願寺聖人親鸞繪傳二卷 宗昭撰

系 譜 三 淨土傳燈總系譜三卷 鸞宿著

蓮 派 蓮門宗派

新 往 新撰往生傳七卷 了吟輯

檀 志 檀林志十二卷 攝門撰

武 家 武家年代記三卷

貞享版 鎌倉佐介淨刹光明寺開山御傳一卷 道光著

高 本朝高僧傳七四卷 師蠻編

古 德 拾遺古德傳繪詞九卷 宗昭撰

信 證 教行信證六卷 親鸞集

大原鈔 大原談義聞書鈔見聞 西譽著

遍 譜 一遍上人年譜略一卷

刻 史 日本古刻書史一卷 朝倉龜三編

念 傳 金澤文庫藏念佛往生傳(假題)一卷

關 記 關東往還記 性海記

高 統 高田派正統記六卷 良空撰

法 記 法水分流記一卷 靜見錄

鎌 新編鎌倉志八卷 河井恒久纂

黑 序 黑谷上人語燈錄序 道光撰

淨 譜 淨華院圓誠譜

明 譜 鷺峰開山法燈圓明國師行狀年譜一卷 聖薰編